子ども会（学習会）だより
MY SKY No.11
マイ・スカイ
1997年７月１日火曜日発行(毎週火曜日きまぐれ発行)

発行者
板野中学校
学習会
編集・文責：吉成正士

期末テストが終わりました。みなさんごくろうさまです。でもテストが終わったからといって，勉強が終わったというわけではありません。一生涯勉強です。マイペースに，でも自分の好きな勉強は懸命に，頑張ってみましょう！

さて先週の金曜日，「部落問題・同和教育」勉強会を予定通り郡頭集会所で行いました。お知らせしていたとおり，住井すゑさんの「橋のない川」上映会でした。今回は保護者の方１名と，瀬川先生，林先生，柿原先生，そして私の家族２名半(?)の，計６名半にも増え，大盛況(?)でした。私自身この映画を見るのは，もう５回目くらいになりますが，久々に見て，やはり「感動」でした。それに，今まで気づいてなかった場面にも気づけ，「発見の感動」もありました。部落問題を勉強するうえで，明治・大正の頃，つまり水平社が創立される頃の出来事は，やはりはずすことができません。「温故知新」ということわざがありますが，古きをあたためてこそ，現在や未来のあり方が見えてくるように感じさせてくれます。あの頃の状況と今とは全然違うので，そっくりそのまま現代に取り入れるというわけにはいきませんが，形を変え取り入れねばならない面はあるように思われます。みなさんも，まずは「温故」，古きをあたためてみてください。

なお次回の勉強会は，やはり今週の金曜日(７月４日)，郡頭集会所で，７：３０から行います。みなさんふるって参加し，気軽に勉強してみてください。

それと，今週金曜日からいよいよ郡総体が始まりますね。今までの努力が結果として出るかどうかわかりませんが，とにかく悔いのないよう，全力で頑張ってきてください！

▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼

☆ 板野郡部落問題意見発表会(６月23日；藍住東中)と部落解放徳島県学習会中学生集会

「第２回部落解放徳島県学習会中学生集会」実行委員会開催日決定！！

と　き；７月１２日(土)13:30～　　ところ；板野中学校会議室

昨年に引き続き，いよいよ本年度の県中実行委員会開催日が決まました！徳島県内の学習会に行っている中学生が，一堂に会する集会の実行委員会です。ちなみに昨年の集会では，250名もの仲間が集い，語り合うことができました。学習会参加者であれば誰でも参加でき

るので，是非ともみなさん参加してください！他校にたくさんの仲間がいるということが，実感できるはずです！

また郡の意見発表会では，昨年県中に参加していた生徒の，県中を題材にした原稿が，板野郡代表となりました。なんともまあ頼もしい限りです。その原稿については来週紹介するとして，今回は，本校代表の原稿を紹介することにします。来週もお楽しみに！！

部落差別に対する怒り　　板野中学校２年女子

世の中にはいろいろな差別があります。その中でも私は，部落差別が絶対に許せません。なぜ許せないのかというと，父が被差別部落出身だということで，父と母が結婚差別を受けたからです。そして小学校５年生のとき，父と母に「どんな結婚差別を受けたん？」と聞いてみると，父は「やっぱり，お母さんの母親や親戚には反対された」と言ってくれました。その話を聞いたとき，私は心の中で，一つだけ気づいたことがありました。それは，私が生まれてから，一回もお母さんの母親，つまりおばあちゃんに会ったことがないということです。さらに父と母の結婚差別について詳しく聞いていくうちに，父も母も泣いていました。そのときの父と母は，今まで見たこともないような顔つきで，怒りや悲しみでいっぱいの顔でした。私はその姿を見て「なぜ，好きな人と結婚できないのだろう。なぜ部落だからといって反対されるのだろう」と考えているうちに「なぜ，私はこんなところに生まれたのだろう」と思っていました。それに「もし部落に生まれていなければ，お母さんの母親に会うことができるのに」とも思っていました。それからも「なぜ私は，こんなところに生まれたのだろう」と思うことが何度かあり，そのたびに，怒りと悲しみがこみあげてきました。

中学一年生のとき，私の体育館シューズが盗まれたことがありました。私は「自分に部落の血が流れているから，こんなことされたのか」という思いを，少し持ってしまいました。

またあるとき，違う学校の友達に「どこらへんに住んでいるの」と聞かれたことがありました。そのときなぜか，自分が部落だということを隠したこともありました。自分が部落だということを，友達に知られたくなかったからです。でも心の中では「隠したらダメだ。きちんと本当のことを言わなければ」という気持ちもあり「なぜあのとき自分は隠したのだろう」と悩むこともありました。そしてそんなとき，自分がどれだけ弱いかがすごくわかりました。心の中では，「隠してはダメだ」という気持ちはあるのですが，それを言ったことで部落の人間だということがわかり「嫌われたらどうしよう」と思ってしまい，

つい隠してしまったのです。しかし私は，部落に生まれたいと思ったわけではありません。でも，みなさん，もし自分が部落の人間だからということで，誰かに「あそこの子と遊んだりしたらあかん」と言われたらどう思いますか。私であれば，そういった人やそう言わせてる差別社会が憎くて，許せません。そう思うと，部落の人たちがどんなに苦しく，また悔しい思いをしてきたかが，よくわかるはずです。

でも今の私は，そんな苦しい思いをしていません。それはなぜかというと，心が通いあい，また私を理解し守ってくれる仲間がたくさんいるからです。だから今は，胸を張って生きていけてます。

……中略……

また，部落差別をしている人たちにも「部落の人が悪いのではない。部落差別を作った人も悪いけど，それを今まで残してきた社会が悪い。その社会は私たち一人ひとりが作っているんだ」ということをわかってもらって，自分の身のまわりのことから少しずつでも，世の中にあるいろいろな差別をなくしていきたいと思います。そうすることによって，人と人とのつながりもでき，差別やいじめがなくなり，みんなが幸せに暮らしていけると思います。そのためにも，自分の本当に思っていることを一人でも多くの人に聞いてもらったり，自分の考えに対して意見を言ってもらったりすることができればと思います。とにかく差別問題について友達と日頃から話し合うことが大切だと思います。さらに，部落差別やいじめをみんなで考えていくことで，一人ひとりが自分の考えをはっきり言えるようにしていきたいです。それには，一人ひとりの自覚や協力が大切になってきます。そんな積み重ねを通して，いじめやいろいろな差別の解消につながっていくと，私は思っています。

私は将来結婚をするとき，相手の人や相手の両親に，自分が部落出身だということをはっきり言えるようにしていきたいと思っています。そしてもし相手の両親に反対されることがあったとしても，部落差別がいかに愚かなことであるかをわかってもらえるような，強い心もてるようにがんばりたいです。みなさんも，共に部落差別について考えてください。

お便りコーナー

今回は，「百番目のＴシャツ」会から送られてきた，たくさんのパンフレットの中に見つけた詩を紹介したいと思います。なんとなく，ジーンときませんか？

ひとりの よろこびや かなしみを
みんなの よろこびや かなしみと するような
やさしさや かしこさを もつひとびと

じじつを よくみつめ
ともにかんがえ ともにまなび ともに あそび
ともに いきる みんなの まち

おとなも こどもも わかものたちも
おんなも おとこも おとしよりも あかんぼうも
みんな みんな よっといで

いつまでも くさらぬ えんぴつの しんを
まわりから ささえあうような
やさしさやかしこさをもつなかまたち

ひとりのかなしみやよろこびを
みんなのかなしみやよろこびとするような
やさしさのある よのなかを
かしこさのある ちきゅーを つくろうー。

「みんなのうた」
えんぴつの家　玉本　格

▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼

♪♯ ひとり・ごと ♪♭

今週水曜日には，２年Ｄ組が，お隣にある板野養護学校へ交流学習に行ってきます。今年度の第１回です。日頃できない勉強を，しっかりしてきてほしいものです。また，残念ながら行けない学年やクラスの人は，いろんな機会を通じて，行った人に尋ねてみてくださいね。また，自由に交流できる機会があれば連絡しますので，そのときには是非出かけてみてください。

★　☆☆　★★★　☆☆☆☆　★★★　☆☆　★

7月２日(水)　第１回板野養護学校交流会(板野養護学校)
　４日(金)～６日(日)　板野郡中学校総合体育大会(郡内各会場)
　10日(木)・11日(金)　四国同和教育研究大会(愛媛県)
　12日(土)　「第2回部落解放徳島県学習会中学生集会」第１回実行委員会(13:30～；板野中学校会議室)
　15日(火)　板野町同和教育研究大会「就学前部会」(板野わかば保育園)

和田武広講演会
『二度とない人生だから⑦』

資料三にある手紙をご覧ください。

「僕は結局挫折をした。『仕方がないんだ。どうしようもないんだ』と自分に言い聞かせ、諦めようとした。しかし心の片隅で、『そんなことはない。何かあるはずなのに、自分が見いだすことが出来ないのではないか』という反問が常に離れず、悶々としておりました。

そんなとき、あるきっかけで大変なことに気がつきました。どうしてこんな簡単なことに今まで気がつかなかったんだろうか。僕は闘うことを全く忘れていたのです。姉の離婚を回避するために、僕が考えたことといえば、いかにしてきみの出身を隠すか。いかにして駆け落ちをするか。そんな、逃げることばかりしか考えていなかった。闘う前に逃げ出そうとしていた。僕は闘う前から相手にのまれ、結果的には彼らの陰湿で卑劣な行為を認めようとしていた。僕は怒りを忘れ、闘うことを忘れ、闘えば必ず勝つということに気がつかなかった。

独り言だと思って聞いてほしい。きみに選択をしてほしい。僕と一緒になることは、精神的にも経済的にも大変なことだと思うし、家や両親のこともあるでしょう。またそれ以上に、いや決定的なことだと思いますが、僕がきみやきみの両親に対して行ってきた行為もあるし、別れてもう四ヶ月になるという現実もあります。しかしそれでも僕と一緒になることが、きみの幸福につながり、どんなことがあっても僕についてくると今でも思っているならば、僕に三ヶ月だけ時間をください。僕の男としての存在をかけて闘います。恐いものはもうないし、起こりうる事態も覚悟しています。必ず勝ちます。そして三ヶ月以内に、改めてきみの家にきみをもらいに行きます。幸せにしてみせます」

十日後彼女から、返事が来ました。資料の四をご覧ください。

「私の気持ちもやっと整理がつきました。私の気持ちも以前と少しも変わっていません。でも前と同じ結果になるのでは・・・。いいえあなたを信じていないのではありません。周りの人たちに迷惑がかかり、前以上に苦しめるのでは・・・と恐いのです。でも、自分の気持ちをこれ以上抑えるのもいやです。今後どのようなことがあっても、もう離れたくありません。あなたについていくことが私の幸せと信じます」

このような手紙がきたわけです。

これで彼女と二人の意思が確認できました。そして、それから二人が再会し、新たに双方の両親親族に対する説得活動が始まりました。

毎日毎日朝早くから、あるいは夜も毎晩のように帰って、両親や兄弟、あるいは親族を説得にまわりました。結論から言いますと、現時点で私の努力で両親がわかってくれたということにはなっておりません。しかし、二人が「自分たちの力で闘っていくんだ。差別を乗り越えるんだ」ということを決意して、そして「今後二人が結婚して、どんな辛いことがあろうとも、どのような差別が待っていようとも、力強く生きていけるんだ」と、互いの気持ちを確認し会う中で、結婚式を挙げることができました。一九七九年の十二月二日、敢えて仏滅の日曜日を選びました。「仏滅がどうのこうのというような古い考えも偏見につながることだ」と思い、敢えてそれに挑戦しようと、仏滅の日曜日を選んで、二人で結婚式を挙げたわけです。それから17年が経って、現在三人の子どもがおるわけです。

そういう私自身の結婚経験でございますが、私は、あのときから決断をし、差別と闘い続けてきました。そして現在も、

「自分たちのような辛い思いを二度と他のみんなにしてほしくない。また、逆に乗り越えた後に出てくる幸せ、差別をする人間の惨めさ、差別と闘う者の素晴らしさ、これらことを多くの方に伝えたい」

という思いで、今日も参ったわけでございます。また私は、

「三人の子どもたちが自分たちのような思いをしないために、結婚をする頃までには、差別を無くしてみよう。自分たちで一生懸命努力しよう」

と考えております。でも、もしかして自分たちの努力が足りずに、私の子どもが大きくなった頃、結婚とかの問題にあったとき、差別にぶち当たるかもしれません。でも、私は一切心配しておりません。親が差別と真正面から向き合って、差別を無くそうとして闘っている後ろ姿を見ていれば、もし子どもの代に差別が残っていたとしても、差別に負けるような子どもには育たないというように考えております。差別があっても、「そんなもの蹴飛ばしゃいいんだ。差別する人間が悪いんだ」と、胸を張って堂々と言える人間に育つだろうというふうに考えております。

そういう中で、長男は高校一年生になりました・・・

つづく